

普及活動検討会実施報告書

仙台農業改良普及センター
実施月日：令和 8 年 8 月 3 1 日
実施場所： JA 新宮城あさひな統括部および現地

1 検討内容

No	検 討 項 目
1 2	普及活動計画について プロジェクト課題について No.1 ねぎの次世代担い手育成による産地の強化 No.2 利府梨新規就農者のジョイントV字樹形栽培技術の定着と環境にやさしい防除技術の習得 No.3 気候変動や難防除病害虫の対策技術導入によるトマトの大規模施設経営体の生産安定 No.4 大和町落合相川地区における担い手法人の持続的な経営体制の構築

2 検討委員の構成

区 分	人数	区 分	人数
先進的な農業者	1	生 活 者	1
若手・女性農業者	1	学識経験者	
市 町 村	5	マスコミ	
農業関係団体	2	民間企業	1

(単位：人)

3 委員の評価と普及センターとしての対応方向

検討項目	評価値 平均値	評価結果（コメント，評価表の要約）	普及センターとしての対応方向
令和 8 年度 普及指導計画について	4.3	○基本方針、プロジェクト活動、重点活動すべて仙台管内の現状の中で必要な取り組みで、活動展開の方向性としては非常に良いと感じる。時代とともに気象状況やニーズも変化していく中で、現状の課題を見極め、普及計画に取り入れていただければと思う。 ○産地を維持するためには、若手や大規模農家に対し実施した支援をもとに、どのように部会や高齢化した小規模農家に対しても広めていくかも含め活動計画も振り返ってほしい。 ○技術指導や担い手確保支援など、現場のニーズを的確にとらえた計画と考えられる。計画が達成されるよう活動してほしい。 ○どのプロジェクト活動においても関係機関・団体と密接な関係を築き、地域農業の活性化に向けて、積極的に普及活動を推進し、順調に進捗していることが説明より確認できた。 ○今後、支援や推進していく中で生産者と関係機関の間で捉え方の違いが出てくる案件が多いと思われるため、注力していただきたい。	○仙台管内の普及指導計画は、仙台都市圏の強みを活かした魅力ある都市近郊農業の推進を目標として取組を進めておりますが、農業者の減少と高齢化、農業資材の高騰、異常気象など、農業を取り巻く環境は厳しくなっておりますので、こうした状況変化や課題を見極めて、普及活動に活かしてまいります。 ○普及活動を効率的・効果的に実施するため、普及指導計画における対象者は、その成果が他の地域に波及されるようモデルとなり得る経営体等を選定し、活動を推進しておりますので、部会や小規模農家にも成果を反映できるよう努めてまいります。 ○技術の普及と担い手確保については、農政推進上の重要課題であるため、スマート農業技術等の導入支援や親元就農を含めた新規就農者等への伴走型支援を行ってまいります。 ○日々の活動で得た地域の課題、問題点などを整理し、あるべき姿を目標としてプロジェクトや重点活動を設定し推進しています。普及センターはもちろん、農業者や関係機関とともに課題解決にあたる必要があることから、市町村やJAの振興計画等との整合性に配慮して、その方向や手段、方法等をわかりやすく提示し、総合力が発揮できるよう努めてまいります。
プロジェクト課題 No.1 ねぎの次世代担い手育成による産地の強化	4.4	○現地を確認して、支援が行き届いており成果が出ていると思う。引き続き、JAとも連携し、若手農業者が普及センターの栽培技術支援等を受けて、良質な生産を行い、収益の増加に繋がる取組をサポートしていただきたい。 ○若手農業者が部会に所属する・SNSを活用する等で他市町村の農業者ともネットワークを形成し、情報交換を行うことは非常に良いことだと思う。 ○プロジェクトも3年が経過し、課題の解決も見えてきたように思える。目標は十分に達成できていると感じる。今後新たな課題に対しても、ネットワークを活かしながらがんばってほしい。 ○5年後、地域のねぎ生産面積が現状維持できないと判断した場合、現状に対しどの程度の面積維持を目指すのか、また、平均単収到達者が令和7年度3人に対し2人となった要因は何か、併せて今後、目標未達成の場合に、その原因と対策の分析を期待する。	○引き続き、定期的な個別巡回及びJAの部会活動と連携した栽培管理技術向上を支援し、年間スケジュールを意識した管理作業の励行を行ってまいります。 ○先進地視察や若手農業者の情報交換会の開催やLINEグループを活用した対象者相互のネットワークづくりを進めることで、横のつながりを強化し、個々が抱える課題を解決出来るよう支援してまいります。 ○令和7年度は、夏季高温及び管理作業の遅れによる減収がありました。令和8年度は昨年の経験を踏まえた適期作業の励行に加え、大雨対応に取り組んでいるところであり、普及センターとしても個々の栽培状況に応じた支援を行ってまいります。 ○産地の維持については、JA及び部会役員と産地の意向を確認して連携の上、取組を進めてまいります。
プロジェクト課題 No.2 利府梨新規就農者のジョイントV字樹形栽培技術の定着と環境にやさしい防除技術の習得	4.0	○所得目標の設定は良いと思う。到達率は低いようだが課題が可視化できていると感じた。また、発消長データを把握し、効果的な殺ダニ剤の使用低減の対策は経済的にも評価できる。 ○ジョイントV字樹形栽培は県内でも未だ事例が少ない大事な技術だと思う。最終年の時点でこのほ場ではまだ結果がでないと思うが、興味をもった生産者が実践に向けた検討ができるような活動計画としてほしい。 ○定量的数値目標として、令和8年の所得目標の到達率として20%とあげているが、令和7年度に対象者2人が新規就農し3月に植栽した場合、定植年に生産・出荷できないと考えられる。この数値が、何に対する所得目標なのか分かりにくかった。 ○利府町内では、ジョイントV字樹形は初めての試みに	○所得目標の達成に向け、栽培技術の向上支援等を行います。シンクイムシ類の発消長データの把握は継続して取り組み、化学農薬の使用低減に向け、天敵ダニ製剤の普及・定着を図ってまいります。 ○課題対象者以外の農業者や新規参入意向者等に対して、ジョイントV字樹形栽培の情報提供や取組事例紹介を行い、栽培技術の普及・啓発に努めてまいります。 ○「青年等就農計画」における所得目標と整合を図っております。対象者の2人は、親から既存園を引き継いでいる方、既存園地を居抜きで借用している方です。これらの園地からの所得も計上する計画となっており、当該計画における5年後の所得目標に対する到達率として設定しております。 ○引き続き、新規就農者の方に寄り添い、定期的な個別巡

		なと思うため、手厚いサポートをお願いしたい。新規の就農者でも安定した収入になるよう今後も支援してほしい。 ○導入のメリットは大きいと感じた。多くの方に普及するために、何が課題なのかを明確にして支援を続けてほしい。	回により、安定的な所得が得られるよう伴走型で支援してまいります。 ○従来の平棚栽培より、栽培施設・設備の導入コストがかかることが課題です。各種補助事業の活用支援等を行い、初期投資費用の低減につながるよう支援してまいります。
プロジェクト課題 No.3 気 候 変 動 や 難 防 除 病 害 虫 の 対 策 技 術 導 入 に よ る ト マ ト の 大 規 模 施 設 経 営 体 の 生 産 安 定	4.3	○環境制御技術により「見える化」を行い、分析したうえで改善へ繋げていることは評価できる。技術の改善により収量や品質向上に寄与できた部分があれば、他の生産者へも普及し、県の園芸産出額増加に寄与できるよう取り組んでほしい。 ○物価が上昇しているため、コスト削減につながるような新たな技術の普及をお願いしたい。 ○昨今の猛暑が及ぼす経営および作物への影響を考えると、高温対策を新規課題として取り上げることが妥当と感じる。トマトだけでなく、気候変動に対しどのような対策が必要か、汎用性のある技術を伝える活動を期待する。 ○黄化葉巻病の害は多く聞いており、新規技術を導入している経営体でも対策は困難であるようだ。また、トマトキバガに関する対策についても検討をお願いしたい。 ○グロワー交流会等による情報の共有や意見から有益な対策が見えてくるものは多いと期待できる。生産者間の技術情報共有を図りながらの支援をお願いしたい。	○プロジェクトの対象法人では、環境制御装置を活用してハウス内の環境を管理していますので、普及センターでは、ハウス内温度や肥料濃度（EC）が適正か否か、画像等を活用して確認しながら助言を行っています。また、対象法人で導入が進められている遮熱剤の塗布や遮光資材の活用などの高温対策は他品目への応用もできる技術であるため、導入事例とその効果を整理し、普及に努めてまいります。これらの取組を通じて、効率的な栽培管理を進めながら、収量や品質の向上を図り、産出額の増加を目指してまいります。 ○黄化葉巻病を媒介するタバココナジラミの防除には、複数の技術を組み合わせた総合的な防除が必要であることから、生産現場に合った適切な防除技術の導入を支援してまいります。また、トマトキバガについても、発生状況を把握し、必要な対策技術の導入を支援してまいります。 ○情報交換会では、新しい技術や各農場が抱える課題を共有することができ、自らの農場の管理を見つめ直す機会となっています。今後も、生産者間の交流や技術情報の共有を進め、現場の課題解決につながる支援を行ってまいります。 ○各法人における導入技術や成果、課題を整理し、次年度の対策に活用できるよう情報共有を進めてまいります。
プロジェクト課題 No.4 大 和 町 落 合 相 川 地 区 に お け る 担 い 手 法 人 の 持 続 的 な 経 営 体 制 の 構 築	4.3	○株式会社になるにあたり期待と不安がある状況かと思う。引き続き普及活動によるサポートをしてほしい。また、法人化は他市町村でも課題となっているため、地域の先進事例となり、地域の営農にとってもプラスになればなお良いと思う。 ○組織変更のみでなく、法人として次世代につながるような成長ができるよう支援と伴走をしてほしい。 ○構成員の組織変更計画への理解促進や合意形成、経営継承や労働環境整備に関する意識が高まったことは評価できる。構成員の高齢化に伴う今後の担い手不足について、解消に向けた対策を望む。 ○営農管理システムを活用した支援を行い、可変施肥の手法や資材管理に対する役員の意識が醸成されたことはおおいに評価できる。効果的に営農していくため、今後も営農管理システムを用いた持続的な経営に対して支援を望む。	○管内においても集落営農組織等の法人化や組織変更の事例は増えつつあります。地域において持続的な営農が可能となるよう、将来を見据えた営農体制作りを引き続き支援してまいります。 ○構成員の高齢化が進む中、今後も地区の担い手として継続して営農するためには、次世代の人材の確保及び定着は特に重要な課題となります。そのため、就業規則の整備をはじめとして雇用に係る体制整備を支援し、地域における安定的な営農に結び付くような取組となるよう努めてまいります。 ○スマート農業は農作業の省力化や効率化、精密な栽培管理が実現するとの期待が高まっておりますが、一方で技術導入に係る費用対効果については法人ごとに異なるため、その見極めもより重要となります。法人の現状および将来の方向性に見合ったスマート農業の技術導入ができるよう、構成員の意識付けも含めて支援に努めてまいります。
その他		○各市町村でそれぞれ独自の課題があると思う。特に高齢化による離農者が増える中、所得向上を図り担い手不足を解消する指導を今後ともお願いしたい。 ○各課題について、支援前、支援期中、支援後の目標や到達状況をもう少し詳しく知りたい。	○ねぎの若手農業者と梨の新規参入農業者に対しては、収量・品質向上を支援してまいります。また市町村が策定した地域計画や農地整備事業で位置づけられた担い手に対しては、生産体制の整備を支援し効率的で収益性の高い水田農業を推進してまいります。 ○普及指導計画には、成果指標と活動指標があり、支援前と支援期間中の定量的数値が設定されています。今回は中間評価ということで明確にご説明できないところがありましたが、年度末の総合評価においては詳しくご説明いたします。また、支援後の目標はいずれも技術の習得、産地維持、経営の安定など、各対象の将来の“あるべき姿”を記載しております。

※：検討項目数に応じて欄を追加し記載する